

[特集]

土木遺産 X

～九州地方 現存する「石」の土木施設～

人類の文明は石器に始まり、
ピラミッドやローマ神殿等の石を材料とする
「石の文化」を主流に展開されてきた。

しかし日本では豊富な木材が利用され、
世界的には支流であった「木の文化」が主流となった。

その中であって九州では、
「石」による古墳や仏像や土木施設が数多く現存している。
独自の「石の文化」を培ってきた。
九州地方のまだ語られていない「石造土木遺産」を取り上げる。

青の洞門がある競秀峰(大分県中津市本耶馬溪町)
(写真:松嶋健太)